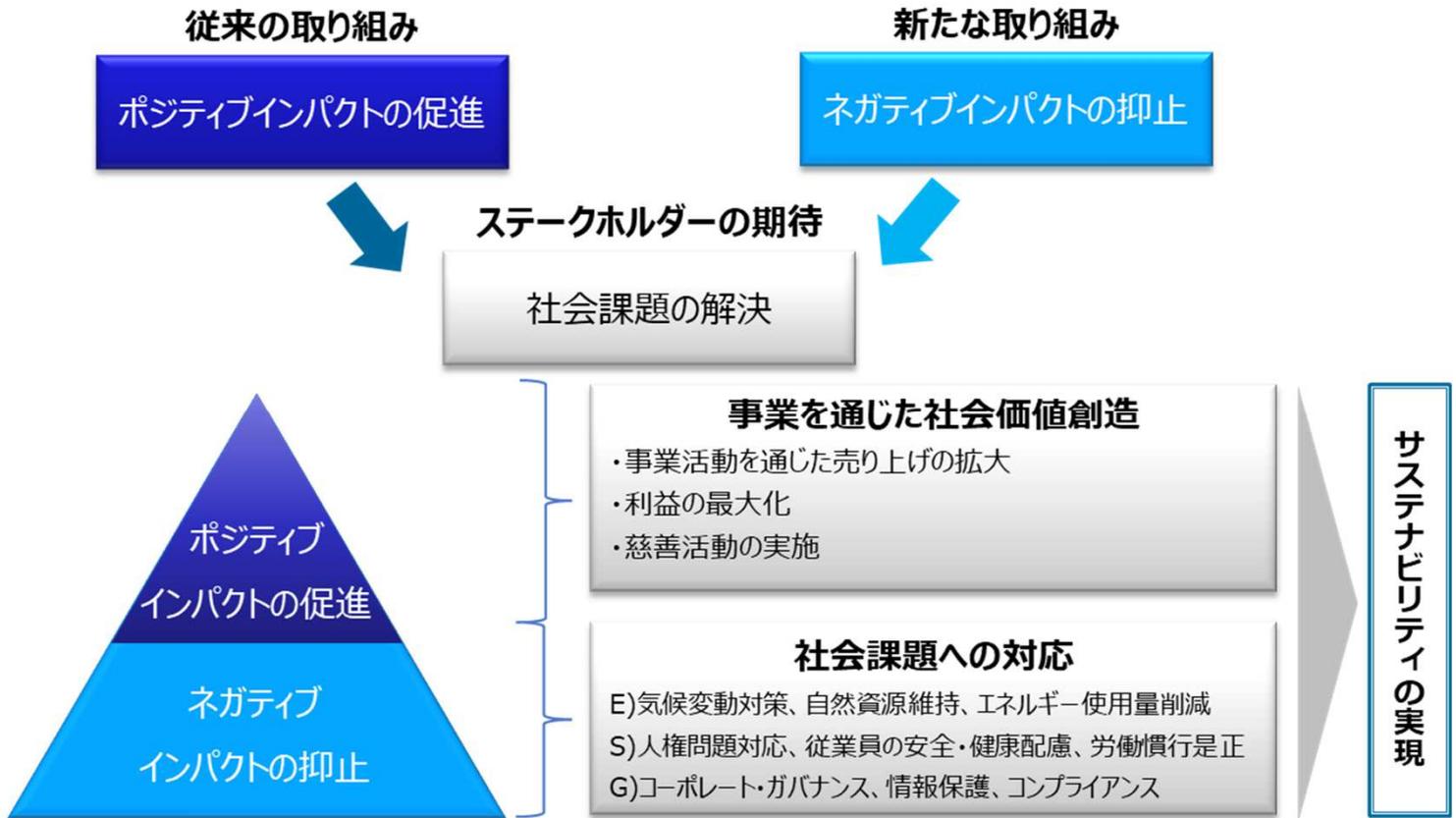


サステナビリティ経営導入支援サービス

経営に求められる社会課題の解決

サステナビリティ経営を導入するにあたり、企業はこれまで目指していた利益の最大化だけでなく、事業活動に関わる負の影響について認識し、解決に取り組まなければなりません。



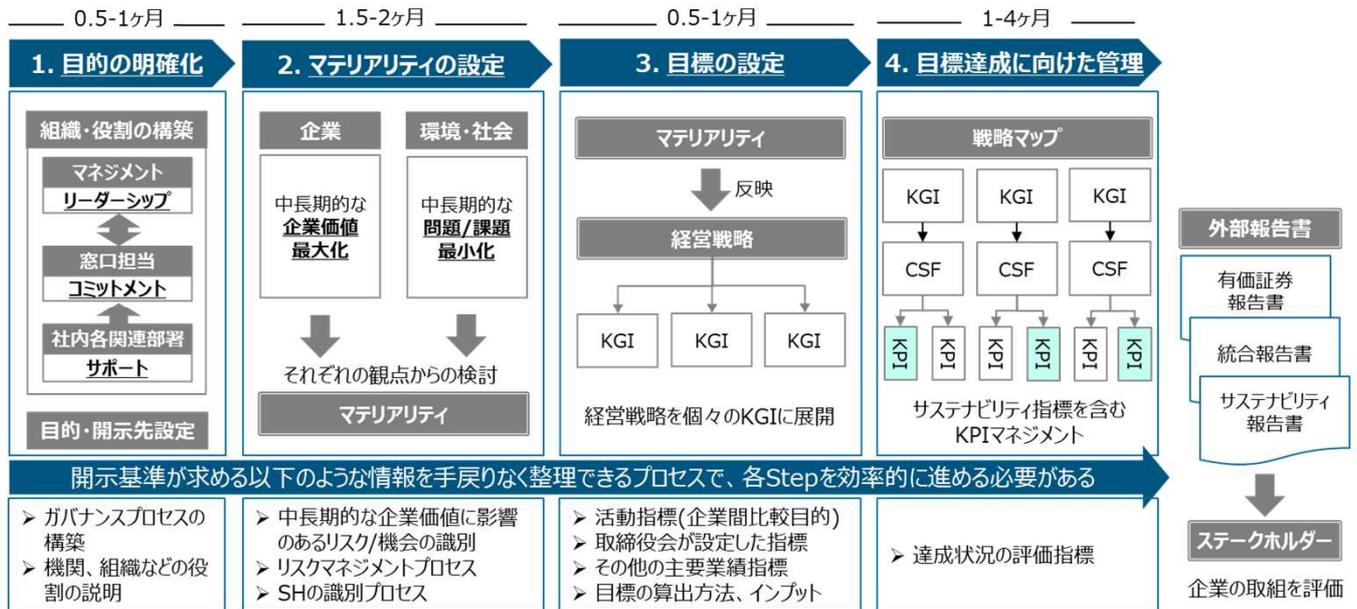
サステナビリティ経営導入における典型課題

多くの企業で導入を試みっていますが、効率的に推進できていないケースが散見されます。

典型課題例	主な要因	必要な取り組み
1 サステナビリティ経営導入の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷が比較的少ない業種で見受けられる 短期的な視点に捉われがち リソースが十分でなく、検討が進められない 	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響以外の重要性を理解し、取り組みの目的を明確化 推進する上で必要な組織を明らかにし、十分な体制を構築
2 ESG目標を導入したが、社内に浸透しない	<ul style="list-style-type: none"> 十分な検討をせずにマテリアリティのみ開示 各ステークホルダーと十分に議論できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 自社におけるステークホルダーを特定 社員を巻き込んだマテリアリティの検討 KPIへ落とし込み、日々の活動へ定着
3 サステナビリティ経営で経営戦略が達成できる？	<ul style="list-style-type: none"> 経営目標とESG目標を掲げているが、それぞれが独立していてリンクしていない ESG目標が重要戦略と位置付けられていない 	<ul style="list-style-type: none"> 現状戦略とESG達成のための施策の繋がりを明確化 トレードオフ関係を明確にし、必要な対策を検討
4 TCFDをどう進めればよい？	<ul style="list-style-type: none"> プライム市場の要求で取り急ぎ賛同をしたが、開示基準や進め方がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> TCFD推奨開示事項実現までのロードマップ作成 実現可能な取組事項の整理と実行

サステナビリティ経営導入支援の流れ

サステナビリティ経営を進めるにおいて、最終的な開示を意識した取組が重要です。選択した開示基準で求められる情報やプロセスを漏れなく捕捉し、効率的に進める必要があります。



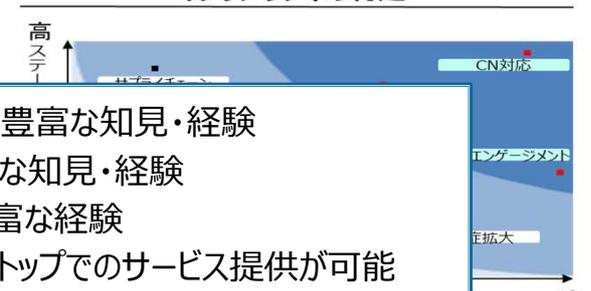
プロジェクト成果物イメージ及び弊社の特徴

マテリアリティを特定するだけでなく、運用・定着までをスコープに入れて支援します。

リスク・機会分析 (開示基準×事業戦略)

項目	課題の識別	リスクの機会	ステークホルダーへの影響	企業への影響
環境	気候変動によるサプライチェーンの断絶	再生可能エネルギーへの移行によるコスト削減	環境意識の高い消費者	環境負荷低減による競争優位性の向上
社会	労働力不足による生産性の低下	デジタル人材の育成による業務効率化	地域社会	社会貢献によるブランドイメージの向上
ガバナンス	不正行為による評判低下	透明性の高い経営による信頼獲得	投資家	ESG評価の向上による株価安定化

マテリアリティの特定



- ✓ **課題識別・問題解決**に関する豊富な知見・経験
- ✓ **KPIマネジメント**に関する豊富な知見・経験
- ✓ **プロジェクトマネジメント**の豊富な経験
- ✓ **構想から運用定着まで**ワンストップでのサービス提供が可能

戦略マップ (既存戦略×サステナビリティ)



KPI一覧表

項目	指標	目標値	現状値	達成率	注
環境	CO2排出量	削減率30%	削減率25%	83%	
	再生可能エネルギー利用率	20%	15%	75%	
	廃棄物削減率	50%	45%	90%	
	環境負荷低減製品売上高	100億円	80億円	80%	
社会	従業員満足度	85%	80%	94%	
	ダイバーシティ推進率	90%	85%	94%	
	地域貢献活動実施回数	100回	90回	90%	
	労働安全衛生管理	ゼロ	ゼロ	100%	

アットストリームグループのご紹介

【沿革】
 2001年7月 Arthur Andersen Business Consulting部門のパートナー、マネジャーが中心となり設立。
 2018年4月 (株)アットストリームを持株会社として事業会社を分社化し、組織運営方法の異なる二つの事業会社、アットストリームコンサルティング(株)、アットストリームパートナーズ(同)を設立。

【所在地】
 東京オフィス 〒104-0031 東京都中央区京橋2-7-14 ビュレックス京橋 7F
 大阪オフィス 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-4-10 淀屋橋センタービル 12F
 名古屋オフィス 〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル 7F
 広島オフィス 〒730-0051 広島市中区大手町2-2-9 ビル博丈大手町2F

【URL】 www.atstream.co.jp **【問い合わせ】** query@atstream.co.jp **【担当】** 松永、岩城、上野